

様式 2

番号 観点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
	38・光村	第1学年 第2学年 第3学年	道徳 724 道徳 824 道徳 924	中学道徳 1 きみが いちばん ひかるとき 中学道徳 2 きみが いちばん ひかるとき 中学道徳 3 きみが いちばん ひかるとき
取扱内容 〔学習指導要領の道徳〕及び 目標、内容等 〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生命の尊厳について 第1学年では、自分にとって生きるとはどのようなことか、人はなぜ命の尊さを感じるのかを考える活動等、第2学年では、自分が生きていると感じることができるとはどのようなときか、命とはどのようなものかを考える活動等、第3学年では、命を大切にするとはどのようなことか、命を大切にするにはどのようにすればよいかを考える活動等を取り上げ、生徒が主体的に道徳性を養うことができるようになっていく。 ○ 自然について 第1学年では、生き物や自然と共に生きるということとはどのようなことかを考える活動等、第2学年では、美しい自然を守るために大切なことはどのようなことかを考える活動等、第3学年では、自然環境を守るために大切なことはどのようなことかを考える活動等を取り上げ、生徒が主体的に道徳性を養うことができるようになっていく。 ○ 伝統と文化について 第1学年では、郷土の伝統や文化を受け継ぐことのよさとはどのようなことかを考える活動等、第2学年では、郷土の伝統や文化を守り発展させるためにはどのようなことができるかを考える活動等、第3学年では、近い将来だけでなく遠い将来の郷土を大切にするためにどのようなことができるかを考える活動等を取り上げ、生徒が主体的に道徳性を養うことができるようになっていく。 ○ 情報化への対応について 第1学年では、インターネットやSNSを扱い、自分の悪口やうわさ話などを書かれたらどのようにすればよいかを話し合う活動等、第2学年では、携帯電話やスマートフォンを扱い、上手に利用していくためにはどのようなことを心がけるとよいかを話し合う活動等、第3学年では、インターネットを扱い、様々な人から発信される情報を見極め自分の考えや判断に責任をもつために必要なことは何かを話し合う活動等を取り上げ、生徒が主体的に道徳性を養うことができるようになっていく。 			
内容の構成・排列、分量等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成・排列 言語活動については、考え、話し合うことを中心に据えた「てびき『学びのテーマ』」を配置し、問題解決的な学習については、問題を解決するための発問「考える観点」を配置し、体験的な学習については、道徳的行為に関する体験的な学習を示した「人と人との関係づくり」を配置するなど、生徒が多面的・多角的に思考できるよう工夫されている。 ○ 内容の分量※ 第1学年～Aは8教材、Bは9教材、Cは12教材、Dは7教材、Eは17教材、全体で53教材であり、総ページ数は224ページとなっている。 第2学年～Aは9教材、Bは9教材、Cは12教材、Dは7教材、Eは16教材、全体で53教材であり、総ページ数は224ページとなっている。 第3学年～Aは10教材、Bは7教材、Cは11教材、Dは7教材、Eは20教材、全体で55教材であり、総ページ数は232ページとなっている。 			
使用上の配慮等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年に、教材ごとに記入する「私の気づき」や、シーズンごとの記録を残す「学びの記録」を配置し、自らの道徳的成長を実感したり、新たな課題や目標をもったりするなど、生徒が自らを振り返るための工夫がなされている。 ○ 各学年に、生徒が家庭での話し合いにつなげられるコラムを配置し、家庭や地域との連携を深めるための工夫がなされている。 ○ 道徳の学習の進め方を示すページを設けたり、全ての生徒が学習しやすいようカラーユニバーサルデザインなどを採用したりするなど、使用上の便宜が図られている。 			
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 北海道と関連のある教材は、「あの日 生まれた命」など11箇所取り上げられている。 ○ いじめ問題については、いじめをなくすために自分たちにはどのようなことができるかを考える活動等を取り上げている。 			

※ 「内容の構成・排列、分量等」の「内容の分量」のAは「主として自分自身に関する事」、Bは「主として人との関わりに関する事」、Cは「主として集団や社会との関わりに関する事」、Dは「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事」、Eは「複数の内容項目が含まれている教材」を表す。